

9037 ハマキョウレックス

大須賀 秀徳 (オオスカ ヒデノリ)

株式会社ハマキョウレックス社長

連結で3期連続、単体で12期連続過去最高の 経常利益達成

◆2010年3月期決算概要

(株)ハマキョウレックス常務 日比野 稔

連結の業績は、営業収益 782 億 73 百万円(前期比 9 億 16 百万円減)、営業利益 49 億 55 百万円(同 8 億 48 百万円増)、経常利益 50 億 23 百万円(同 10 億 77 百万円増)、当期純利益 23 億 96 百万円(同 7 億 22 百万円増)であった。(株)ハマキョウレックス単体では、営業収益 296 億 66 百万円(同 16 億 50 百万円増)、営業利益 32 億 36 百万円(同 5 億 59 百万円増)、経常利益 33 億 25 百万円(同 6 億 6 百万円増)、当期純利益 19 億 35 百万円(同 4 億 26 百万円増)であった。

連結において営業収益が減収であったが、経常利益、当期純利益、ともに3期連続の増益、かつ過去最高であった。(株)ハマキョウレックス単体では、営業収益は18期連続、経常利益は14期連続、当期純利益は12期連続の増益となり、いずれも過去最高となった。

◆セグメント別の収益の推移と概況

貨物自動車運送事業の概況についてであるが、406 億 53 百万円(前期比 23 億 69 百万円減)となった。主な要因は、景気悪化による子会社近物レックス(株)の収益減少 33 億 58 百万円である。しかし、収益改善努力の結果、同社において 35 億 85 百万円の経費を削減、営業利益 6 億 69 百万円(前期比 4 億 26 百万円増)となった。そして、M&A で 2009 年 6 月に松本運送(株)の株式を 90%、同年 12 月に大浜運輸(株)、浜松興運(株)の株式をそれぞれ 100%取得し、グループ会社になった。この3社の売上貢献は約 20 億円、営業利益で約 1 億円押し上げる結果となった。

物流センター事業は、前期にオープンしたセンターのフル稼働で 31 億 21 百万円、当期オープンしたセンターの業績寄与で 8 億 7 百万円の増収となった。当期の新規受託は 12 社、当期の稼働状況については 13 社稼働している。物流センター数は前期末から 5 センター増え、60 センターとなった。

◆キャッシュ・フローの状況

営業活動キャッシュ・フロー 37 億円、投資活動キャッシュ・フロー△8 億 27 百万円、財務活動キャッシュ・フロー△15 億 54 百万円となった。当期の設備投資、減価償却費は、グループで 16 億 45 百万円、(株)ハマキョウレックス単体では 6 億 19 百万円となった。グループでは今期 57 億円の投資を計画しており、単体では 34 億円の設備投資をする計画である。減価償却費についてはグループで 24 億 70 万円となった。

有利子負債は 19 億円増えて 400 億 38 百万円になった。これは主に M&A でグループに参加した企業の借入金が増加したことによる。3社の合併によって、資産は 811 億 58 百万円(前期比 60 億 92 百万円増)、負債も同様に増加した。しかしながら、利益剰余金は 21 億 37 百万円、自己資本比率は 1 ポイント上がって 23.1%となった。

◆近物レックスの2010年3月期業績

当期は営業収益346億75百万円(前期比33億75百万円減)、営業利益1億77百万円(同2億27百万円増)、経常利益31百万円(同3億38百万円増)となり、経常利益ベースでの黒字となった。

◆2011年3月期業績予想

連結では、営業収益840億円(前期比57億26百万円増)、営業利益57億円(同7億44百万円増)、経常利益55億円(同4億76百万円増)、当期利益20億円(同2億3百万円増)を目指している。(株)ハマキョウレックス単体では、営業収益320億円、営業利益34億70百万円、経常利益35億円、当期純利益20億円を今期の目標としている。

◆近物レックスの現況。ようやく成長戦略を描けるタイミングに

近物レックス(株)社長 小中章義

当社は貨物自動車運送業を営んでおり、経営改善をはじめて3年目で経常利益31百万円と、ようやく黒字にすることができた。中心となる積合収入は上半期まで残念ながら前年同月を割り続けたが、ようやく昨年12月に前年同期比95.5%まで戻り、年が明けた1月は97.1%、2月103.9%、3月108.1%という形で収入が前年同月を上回るようになった。昨年行った不採算拠点の閉鎖、運行ドライバーの給与改定、管理職の減員等々の固定経費圧縮と、わずかではあるが売上増の相乗効果が出たのではないかと思う。長年できていなかった営業活動も、十数名の営業専任者を全国につくり、ごく小さい売上が獲得できるようになってきた。下期には約7億円のキャッシュ・フローを自分たちで生むことができ、1年間で有利子負債が8億円減少できた。

親会社である(株)ハマキョウレックスからも、運送を委託していただく割合が徐々に増えている。グループからの月商1億円を目指す中で、3月には87百万円まで拡大してきている。このシナジー効果をさらに上げるべく、営業担当の常務を1名、グループ営業の専任に任命した。当社の資産を、(株)ハマキョウレックスという力を借りながら有効に利用していくことを目指している。売上が下げ止まったのは、輸送品質の向上、お預かりした商品を確実にお客様にお届けするという運送業の当然のことの浸透が深まった結果と考えている。

輸送品質の向上は、終わりのない努力を続けなければならない。今期に入って、主要な顧客には送り状に受け取り印をもらう以外に手渡し確認票を渡し、「大丈夫でございますね」と声をかけている。また、商品の誤着、不着、破損などは、夜間に起こることが多い。これを即座に解決できるよう、各地の運行管理課は24時間勤務に取り組んでいる。

3年間は大変苦しい時期であったが、これをしっかりと耐えてくれたのは、お客様に接している1,350人のセールスドライバーである。行く先々で間違いなく時計がわりにまできて信頼を得ている。また、お客様とは接しないが運行便、夜間に走るドライバーが約500名いる。64年の歴史で初めて、彼らに対する評価制度を導入することができた。

ようやく前を向いて成長戦略を描けるところへ来たということで、2月から全国を五つの支社(東北、関東、中部、三重、関西)に分け、役員を支社長を配属させて権限委譲をし、決定の迅速化、人材育成が行えるようにしている。3カ月経過して支社長の意識も高まり、グループのテーマである「コミュニケーション」、「全員参加」にも、私たちもようやく近づけたかと思う。そしてグループの一番のキーワードである「収支日計」も、5支社がそれぞれ工夫をしながら、日々に収益が出るようになりかけている。当社の事業は、積合といういわゆる路線の部分と、倉庫の営業を行っている。さらに3PLに近い顧客の庫内作業も手がけており、小さいなりに安定した収益となってきているので、改めてこの三つの事業のポートフォリオをそれぞれに見合った形で成長させたい。特に、支社ごとの地域に根ざした営業戦略、成長戦略をこれから描いていくところだが、大きな借入金当社では逆に資産となっている。運送業を行う施設、倉庫という資産を従来とは違う観点で伸ばしていくのが、今後の大きな目標である。

◆今期以降も成長戦略を推進

(株)ハマキョウレックス社長 大須賀秀徳

当期の経常利益は、過去最高の 50 億円を達成した。一昨年のリーマン・ショックを受け、厳しい業績予測のもとであったが、全社員一丸となって間接経費削減、時間外労働時間の管理強化、物流予測の精度向上に取り組んだ結果である。

貨物自動車運送事業での増益は、近物レックスの経常利益黒字化の影響が非常に大きい。厳しい決断でのエリア見直しによりコスト削減、また、グループ会社が 3 社増え、こちらの業績も非常に好調で全体のボリュームが増えた。

しかし、物流センター事業では、既存センターの売上は景気の影響で減少した。ただし、前期に立ち上げたセンターのフル寄与と当期の新規立ち上げで、何とか売上を増加することができた。新規受託は、目標の 10 件を達成し 12 件受託することができた。今期の経営方針はこれまでと同様、経営理念の心(物に携わる者の心構え)を基本として三つのキーワード、「収支日計」、「全員参加」、「コミュニケーション」のレベルアップを考えている。引き続き新規受託件数 10 件を掲げているが、4 月に 2 件の受託ができ、順調に推移している。引き合いも常時 50 件前後あり、提案営業を積極的に行って目標以上の成約を目指したい。

貨物自動車運送事業では、近物レックス(株)は経常黒字化できたが、今期は安定的経営を目指し、財務体制見直しにも取り組みたい。関西地区ではグループ会社のワーキングチームを作って立ち上げをしているが、これを全国に伸ばし、情報の共有化とシナジー効果の検証をしていきたい。ただし、燃料の高騰という懸念材料がある。直近の WTI は若干下がっているが、予断を許さない状況である。

また、今期は、海外営業部を開発本部に取り込むという組織変更をした。海外営業を開発という位置づけにし、海外の物流構築を目指していく。

中期経営計画の 1 年目は順調にスタートできた。2 年目である今期は来期の中期経営計画を確実に達成するための非常に重要な年である。3 年目に向け、設備投資を充実させ、中期経営計画の 60 億円を目指したい。

(平成 22 年 5 月 20 日・東京)